

## 第2学年 国語科学習指導案

### 1 単元名

ようこそ！〇〇小「ニャーゴ」げき場へ  
「ニャーゴ」(東京書籍 2年上)

### 2 単元設定の理由

本学級の児童は、「風のゆうびん屋さん」(2年上)で、登場人物の様子や気持ちを思い浮かべて物語を音読して聞き合う学習を、「名前を見てちょうだい」(2年上)では、場面の様子や人物の行動などを想像し、音読や動作で表現する学習をしている。どちらの単元も、保護者や1年生の前で発表することをゴールとしたため、登場人物になりきって音読をしたり動作をしたりすることに意欲的に取り組もうとする児童が多かった。本校は、今年で創立150周年のため、11月の創立記念式典では町たんけんで出会い、お世話になった地域の人について発表する予定である。今回の2回の音読発表会は本番の前段階のよい機会となった。しかし、一方で、自分たちで考えた工夫を音読に生かせる児童は少数であった。音読をただ繰り返すのではなく、より目的をはっきりさせて場面の様子から、想像を広げて読んだり、想像したことを音読で表現したりすることは、今後の児童の言語生活を豊かにすると考え、本単元を設定した。これまでに児童は、場面ごとに登場人物の行動や様子を読み取ることや、「時」「場所」「人物」を手がかりに場面を分けることを学習してきている。それを踏まえて本単元では、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像し、想像したことを音読で表現したり発表し合ったりする学習を行う。

本単元は、登場人物の気持ちを想像し、想像したことを音読で表現することを主たる言語活動とする。人物がしたことや行ったことに着目して、その理由を考えたり、声に出して読んでみたりすることで、想像が広がる楽しさに出合うことができる。また、自分や友達の音読を耳で聞くことで、物語の内容の理解を深めることもできる。登場人物のどのような気持ちをどのような声で表したかを考えることで、想像を広げる力や音読で表現する力が高まり、今後の音読の学習へつなげることができる。付けたい力に適した言語活動だと考える。

本教材は、五つの場面からなり、場所や人物の言動の変化を手がかりに、展開を捉えることができる。また、物語の展開に合わせてそれぞれの場面に配置された挿絵も変化を読み取る手がかりとなる。ねこと三匹の子ねずみが登場人物の中心となり、ユーモラスで軽妙な会話のやり取りが描かれている。「食う一食われる」の関係にあるねことねずみの関係が、物語の中で変わっていく。また、会話文や心内語が多く、想像した人物の気持ちを音読で表すことにも適している。文中には、題名でもある「ニャーゴ」という言葉が何度も出てくる。それらの「ニャーゴ」の意味は全て異なる。それぞれの「ニャーゴ」は、言い換えるとどのような言葉になるのか、前後の叙述を手がかりに想像を広げることができる。友達と話し合いながら想像を広げることができ、音読を通して「読むこと」の力を付けるのに適した教材である。

指導に当たっては、単元の第一次で、町たんけんで出会い、お世話になった地域の方を招いて「ニャーゴ」の音読劇を行うという単元のゴールを示し、学習の見通しをもたせる。ここでは、地域の方のお仕事などを教えていただいたので、今度は自分たちが学校で頑張った成果を見せようと意欲付けたい。第二次では、場面の様子に気を付けて登場人物の様子や気持ちを読み深めたことを生かして表現する活動を設ける。ここでは、場面ごとに登場人物の様子から気持ちを想像して吹き出しに書いてせりふふせんにまとめていく。せりふふせんは音読劇の際に本文に足して児童や地域の方の理解の助けにしたい。また、ねこがねずみを食べたいという気持ちの大きさを場面ごとに紙テープで考え、気持ちの変化が分かりやすいようにする。また、学んだことをすぐに音読に生かし、今後も振り返りができるように、音読練習の様子をタブレットで撮影しておく。第二次の最後には、自分の好きな場面

を選び、登場人物の様子や気持ちを工夫しながら音読劇で表す。ここでは、「ニャーゴ」を読んだことのない地域の方にせりふや動きを工夫して、物語の面白さを分かりやすく伝えるという相手意識や目的意識をもつことで、音読練習や教材の読み取りに意欲的に取り組んでほしい。第三次では、単元の学習を振り返る。学習したことが今後どのようなことに生かしていけるかを確かめ、次の学習や11月の創立記念式典への意欲を高めたい。

### 3 単元の目標

(1) 子供の活動目標

地いきの方にむけて「ニャーゴ」の音読げきをしよう

(2) 指導目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。  
「知識及び技能」 (1) ク
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができるようにする。  
「思考力、判断力、表現力等」 C (1) イ
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。  
「思考力、判断力、表現力等」 C (1) エ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ( (1) ク)	① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C (1) イ) ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1) エ)	① 粘り強く、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、これまでの学習を生かして音読しようとしている。

## 5 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>【第一次】</p> <p>○ 「ニャーゴ」の音読劇をするまでの単元の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書p. 125を読み、題名や挿絵から想像を膨らませる。</li> <li>・「ニャーゴ」を読み、初発の感想を交流する。</li> <li>・地域の方にむけて「ニャーゴ」の音読劇をするという目的を明らかにし、単元の見通しを立てる。</li> </ul> <p>(新出漢字や語句の学習をする。)</p>	<p>◇初発の感想を教室に掲示しておくことで、児童が最初と最後の感想の変化を比べやすいようにする。</p> <p>◇学習計画を教室に掲示しておくことで、児童が単元のゴールや、特に重点をおく段階を常に把握しやすいようにする。</p>	
2  3 4 5 6 7 8	<p>【第二次】</p> <p>○ 物語の場面分けを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時」「場所」「人物」や挿絵を手がかりに、物語を五つの場面に分ける。</li> </ul> <p>○ 場面ごとに、物語の中で起こった出来事確かめ、人物の気持ちを想像し、想像したことを音読で表す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人物の行動や会話、様子がわかる言葉を場面ごとにワークシートにまとめ、場面ごとに起こった出来事確かめる。</li> <li>② ワークシートにまとめたことを基に、場面ごとのねこの気持ちを想像する。</li> <li>③ 想像したことを、そのように想像した理由とともに、友達と伝え合う。</li> <li>④ 物語に出てくる「ニャーゴ」という言葉をどのように読むとよいかなど、想像した人物の気持ちを音読に生かす。</li> </ol>	<p>◇場面分けの後、教科書の挿絵を物語の順に並べ替えるアニメーション「前か後ろか」ゲームに挑戦し、展開を確認できるようにする。</p> <p>◇主体的に読む力を高めるために、挿絵や人物の様子、会話を手がかりとして読むよう助言し、比較したり、理由を考えたりする活動を通して読み深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねこの会話は赤シール、ネズミの会話は青シールを貼るよう促す。</li> <li>・疑問に思うこと、皆で話し合ってみたいことを考えるよう促し、次時の読み深める際に課題として提示する。</li> <li>・前時までワークシートに書いたことを基に、ねこの気持ちを想像できるようにする。ねこが言葉として表していない心内語を想像し、せりふふせんにまとめることで、ねこの気持ちの変化に気付けるようにする。そして、その読みを音読劇に取り込むよう助言する。</li> <li>・せりふふせんは、その都度、ペアの友達と見せ合い、どうしてそのよ</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔思・判・表①〕</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシートの各箇所 に書き込んだ内容 の確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思・判・表②〕</p> <p>せりふふせん</p> <p>せりふふせんの各箇所 に書き込んだ内容 の確認</p> </div>

<p>9 11</p>	<p>○ 地域の方に向けた音読劇の練習を行う。</p> <p>・自分のお気に入りの「ニャーゴ」の場面を選び、音読劇の準備をする。</p> <p>・自分で考えた会話も入れるなど工夫して読む。</p> <p>・地域の方を招いて「ニャーゴ」の音読劇を行う。</p>	<p>うに考えたかななどの理由とともに伝え合えるようにする。</p> <p>・場面ごとに「食ってやる。」というねこの気持ちの大きさを紙テープの長さで考えるよう促し、掲示する。</p> <p>・ねこのお面を被り、何度も音読練習を行う機会を設ける。その様子をタブレットで撮影し、今後の振り返りがしやすいようにする。</p> <p>◇タブレットで撮影した自分の音読を見ることで、前時までの振り返りがしやすいようにする。</p> <p>・せりふふせんを教科書に貼ることで、自分の考えた会話も入れて工夫して音読できるようにする。</p> <p>・地域の方が物語を理解しやすいように、動きや立ち位置も工夫して練習を行うよう助言する。</p>	<div data-bbox="1187 660 1501 1153" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔主①〕</p> <p style="text-align: center;"><u>発言・ワークシート</u></p> <p>音読の工夫について、積極的にグループに提案したり、教師に助言を求めたりしているかの確認。また、ワークシートに書き込んだ「選んだ場面をどう音読したいかというめあて」と「達成するための工夫」の</p> </div> <div data-bbox="1187 1167 1501 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔知・技①〕</p> <p style="text-align: center;"><u>音読・動作</u></p> <p>学習した内容を音読や動作に表せているかの確認</p> </div>
<p>12 13</p>	<p>【第三次】</p> <p>○ 単元の学習を振り返る。</p> <p>・人物のどのような気持ちをどのような声で表したかを確かめ、学習を振り返る。</p> <p>・学習したことが今後どのように生かしていけるかを確かめ、次の学習への意欲を高める。</p> <p>(テストの1時間)</p>	<p>◇学習を振り返ったの感想を書き、初発の感想と比べ、どのような変化があるのかを考えられるようにする。</p> <p>・音読で表す力が付いたこと、地域の方と楽しく交流できたことを振り返り、次の学習や創立150周年式典での発表への意欲を高める。</p>	

## 6 本時

### (1) 目標

#### ① 子供の活動目標

子ねずみたちをたべなかったねこの気持ちをそうぞうし、せりふであらわそう。

#### ② 指導目標

第五場面の様子を読み取り、子ねずみたちを食べなかったねこの気持ちを想像し、せりふを考えることができるようにする。

### (2) 展開

時	学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準	評価方法
	1 第五場面を音読し、本時のめあてを確認する。	1 学習計画表と関連付けながら前時の読み取りを振り返る。そして、第五場面を音読させ、本時のめあてへとつなげていく。		
めあて：子ねずみたちをたべなかったねこの気持ちをそうぞうし、せりふであらわそう。				
	2 ワークシートに書いたことを基に、第五場面の、「ニャーゴ」と小さな声で答えたときのねこの気持ちを考え、せりふで表す。	2 ねこの様子が変わっているところを会話や行動などの叙述から読み取るように促す。 ○ 友達同士で、ももを「だいじそうにかかえ」る動作化を行う中で、気持ちを述べるよう促す。 ○ 第四場面と第五場面の挿絵を比べる活動を行い、第五場面の挿絵には、ねこの目に涙があることに気付けるようにする。 ○ 最後の「ニャーゴ」の意味を想像し、別の言葉に置き換えたねこのせりふを、せりふふせんに書くよう促す。	第五場面の様子を読み取り、子ねずみたちを食べなかったねこの気持ちを想像し、せりふを考えている。	せりふふせん
	3 考えたせりふを発表し合い、本時で想像した内容を生かして、個人で第五場面の音読練習をする。	3 今までに作ったせりふブックを読み返して、ねこの気持ちの変化をおさえ、小さい声でつぶやく「ニャーゴ」と吹き出しの言葉を使うよう指示する。 ○ ペアで発表し合い、その後全体で交流するよう促す。 ○ 友達の考えたせりふのよいところや真似したいところを発表するよう促す。 ○ 五場面の「食ってやる。」というねこの気持ちの大		

	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>きさを手の幅で考えるように促す。</p> <p>○ タブレットで音読の様子を撮影し、今後の振り返りがしやすいようにする。</p> <p>4 子ねずみたちを食べなかったねこの気持ちを想像し、意欲的にせりふを考えたか自己評価するよう促す。</p> <p>○ 次時は、自分の考えたせりふを生かして、地域の方に向けた音読劇の準備をしていくことを知らせる。</p>		
--	----------------------	--	--	--

(3) 本時の評価

<p>「十分満足できる」と判断される状況</p>	<p>第五場面の様子を読み取り、これまでの場面と結び付けて、子ねずみたちを食べなかったねこの気持ちを想像し、せりふを考えている。</p>
<p>「おおむね満足できる」状況にするための手立て</p>	<p>板書から第五場面の様子が分かる語や文を確認し、ねこのせりふと一緒に考えたり、示したりする。</p>